

自己評価表（結果）

学校 番号	38	静岡県立清水南高等学校・同中部	課程	全日制	記載者	榊原 勝
----------	----	-----------------	----	-----	-----	------

今年度の重点目標（学校経営目標）			評価	成果と課題	次年度の取組
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実		A	6年間教育を具体的に実践するため、特に充実期の中3、高1の連携を強く意識付けられた。教職員の6年間教育の意識付けを、より徹底しなければならない。	中高で連携し、6年間を通した指導計画を具体的に実践していく。特に、中から高校へのつながりを円滑に進める。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実（中部部） 進路目標実現のための進路指導の充実（高校）		A	50周年関係で社会で活躍する諸先輩たちと深く接する機会を多く企画し、キャリア教育の一貫にもなった。大学進路実現の結果待ちである。	中高合同のキャリア教育の機会や、充実期の連携等で、更に有効なキャリア教育及び進路指導ができるようにシステムの構築を図る。
ウ	中高が連携した生徒指導の推進		B	50周年の意識付けとそれに伴う生活指導を、PTA、同窓会、後援会が伴って、1集団としての生徒指導が行われた。なお一層の中高連携の充実は大きな課題である。	保護者と学校の協力関係をより推進する。そのための信頼のきずなを深める機会を設定し、生徒の指導育成にあたるという意識を高める。
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実		A	中高合同の行事が充実し、50周年式典の機会もあり、生徒自ら中高協力し合い行事等を成功させる場面が多かった。6年間教育の生徒の成長である。	全生徒が、より主体的に参画できるように学校行事を工夫する。生徒のアイデアを生かしながら、中高一貫の生徒会、部活動構成の完成形を定めていく。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりの推進		A	英語版スクールガイドや新しいガイドを作成した。50周年を通じて学校紹介DVDの作成や、出張学校紹介の充実を図れた。特に、中高一貫広報活動に積極的に取り組み成果を上げた。	学校がより積極的に地域と関わることを通して地域との連携を深める。地域に育てられて学校は成り立つので、地域の人材の有効活用を図る。
カ	予算の適正な執行管理、学校事務の円滑な遂行及び教育環境の整備		A	業務全般で経費削減を図りつつ、予算の適正な執行管理を行った。防災関係の充実、50周年の環境整備充実を図った。環境を維持するための策も今後徹底していかなければならない。	引き続き予算の適正な執行管理を行うとともに、簡便・節約の行動を徹底して、よりよい教育環境整備に努める。

（共通）

領域	ねらい	評価項目	項目	達成目標	当該重点 目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
学校 経営	適切な教育目標の設定	生徒・学校・地域社会の実態に即した教育目標を設定する。	1	中高一貫教育校として、中部部及び高校の特色並びに中高の連携の在り方を明らかにし、それらに基いて新たな目標を設定する。	ア	B	年度当初に分掌、学年、教科等の目標・計画を定め、年度末に評価を実施した。	中高一貫教育校として、中部部及び高校の特色並びに中高の連携の在り方を明らかにし、それらに基いて新たな目標を設定する。前年度の反省を正確に反映できるように、年度当初に、反省を行う会議を設定し、分掌を越えた意見交換を行う。
	開かれた学校づくりの推進	教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努めるとともに地域の人材活用を図る。	2	①土曜オープンスクールの参加者数1000人以上 ②文化祭への保護者及び一般参加者数1500人以上 ③PTA総会への出席率50%以上 ④地区会への出席率50%以上 ⑤学校ホームページの内容の充実	オ	A	①1626人（第1回566人：第2回526人：第3回534人） ②ステージ部門730人、一般公開1215人、合計1945人 ③中部部44%：高校43% ④中部部45%：高校37% ⑤はほぼ毎日更新し、本校の教育活動を発信している。	①土曜オープンスクールの参加者数1500人以上 ②文化祭への保護者及び一般参加者数1500人以上 ③PTA総会への出席率50%以上 ④地区会への出席率50%以上 ⑤学校ホームページの内容の充実
		学校が有する教育機能や施設等の開放を通して、生涯学習センターとしての機能の充実を図るとともに、地域の人材の活用を図る。	2	体育館、グラウンド等の学校施設の開放を積極的に行う。また、大学を始め、県立美術館・県文化財団等の外部機関との連携事業を充実させる。	オ	A	体育施設の開放を積極的に行った。また、外部機関との連携として、中部部では中国語講座、台湾文化講座、県大出前講座、職業講座等を実施した。高校では県大出前講座、静岡学出張講座等を実施した。	体育館、グラウンド等の学校施設の開放を積極的に行う。大学を始め、県立美術館・県文化財団等の外部機関との連携事業を充実させる。
	事務の適切な執行	表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化・セキュリティの徹底を図る。	3	校内LANを利用した安全なファイル管理を研究するとともに、個人情報保護に対する職員の意識高揚を図る。	カ	B	成績処理などの作業を複数人で行うことを徹底するとともに個人情報データの持ち出しに関するルールを厳守した。	校内LANを利用した安全なファイル管理を研究するとともに、個人情報保護に対する職員の意識高揚を図る。
	組織的・機能的な学校運営	各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。	4	中高が連携した分掌運営を推進する。広報活動や50周年事業を成功させる。	ア	A	50周年は大成功であった。職員の工夫努力が実り、三課体制（総務・教務・生徒）の業務が円滑に行われた。今後、業務がより効率的、機能的に運営できるように職員の意見を吸い上げた。	50周年を機会に同窓会・後援会・PTAの連携が深まったので、継続して学校運営に生かしたい。中高が相互に理解した連携で、分掌運営を推進する。
	教育課程	生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施	5	教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。	ア	B	26年度教育課程を適切に編成した。	平成27年度入学者に対する教育課程を適切に編成する。
教科 指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る。	6	①各教科において生徒の学力分析、授業研究を推進するとともに、授業改善を図る。 ②中高の教員全員で6年間の教育計画について積極的に意見を出し合い、よりよい授業計画を作る。 ③中高教員相互の授業参観を積極的に推進する。	ア	A	生徒による授業評価を2回実施するとともに6月に授業公開期間を設け、10月には指導主事訪問により、中高の交流を含めた授業参観を実施した。今年度は各教科で「中心授業」を設定し、その感想等を話し合う教科会議や校内研修を設定した。	①年間行事予定の中に教科会議・中部部成績会議・学年成績会議を位置づけ、生徒の学力分析し、授業研究を推進するとともに、授業改善を図る。 ②中高の教員全員で6年間の教育計画についてその感想等を話し合う教科会議や校内研修を作る。 ③中高教員相互の授業参観を積極的に推進する。
		個に応じたきめ細かな指導を行う。	6	「授業が分かる」と答える生徒の割合：中：80%以上、高：70%以上を目指す。	ア	A	中・高ともに昨年度より向上した。特に高校においては昨年度より10%以上「授業がわかる」と答えた生徒が増加した。 中：87.3% 高：81.6%	引き続き、「授業が分かる」と答える生徒の割合：中：80%以上、高：70%以上を目指す。
	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	授業形態や教材の工夫・改善を図る。	7	生徒による授業評価だけでなく、色々な場面で生徒の意見・感想を収集し、校内研修や教科会議等で活用する。実施可能・改善可能なものについてはすみやかに実行する。	ア	B	職員会議において、分析担当が授業評価の結果の説明を行うことにより問題意識の共有化を図り、個々の効果的な活用にもめた。	生徒による授業評価だけでなく、色々な場面で生徒の意見・感想を収集し、校内研修や教科会議等で活用する。実施可能・改善可能なものについてはすみやかに実行する。
		指導体制を整備し、計画的に推進する。	8	中部部は「表現」、高1は言葉やコミュニケーションを重視した活動、高2は研修旅行、高3は小論文や進路についての活動が中心だが、今年度から完全な中高一貫となることから、6年間の「総合的な学習」の指導体制、指導計画を学校全体で話し合う。	ア	B	教務課が中心になって年間指導計画を作成した。直接の指導は副担任が中心となったが、必要に応じて学年全体で行った。6年間の「総合的な学習の時間」の指導計画については、今後検討する必要がある。	現在は、中部部は「表現」、高1は言葉やコミュニケーションを重視した活動、高2は研修旅行、高3は小論文や進路についての活動が中心だが、6年間の中高一貫教育の視点から「総合的な学習」の指導体制、指導計画を学校全体で話し合い、検討していく。

学習の時間	総合的な学習の時間	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	教科との関連付けに留意し、体験的な活動等による学習の充実を図る。	8	図書館等を活用した体験的な活動の充実を図る。さらに、年間2回以上の講演会を実施し、生徒の視野を広げるとともに、進路や学習に対する意欲を高める。特にH25年度は50周年行事とも関わるので、総務課、生徒課、実行委員会とも連携しながら、周年行事の一環として様々な活動に取り組む。	ア	A	中等部においては図書館を活用し調べ学習を実施した。 高校1年生において図書館を活用した実習を実施した。また、高1は言語活動の総仕上げとして弁論大会も行った。 さらに、創立50周年記念式典の中に「素敵な大人」講演会を位置づけ、玄田有史東京大学教養を招いて記念講演を行った。	図書館等を活用した体験的な活動の充実を図る。さらに、年間2回以上の講演会を実施し、生徒の視野を広げるとともに、進路や学習に対する意欲を高める。平成26年度の素敵な大人講演会の講師は本校卒業生で、現在東京都小笠原村村長の森下一男さんを予定している。
			目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。	8	教務課内の担当だけでなく、学校経営的な大きな視点から、学習内容についてや、指導と評価の一体化についての研修を深める。	ア	B	総合的な学習の時間に係る活動について、目標を明示した上で実施した。またそれぞれの学習活動について担当内で常に評価を行い、必要があれば活動内容を修正した。	教務課内の担当だけでなく、学校経営的な大きな視点から、学習内容についてや、指導と評価の一体化についての研修を深める。
特別活動		社会性及び自主的、実践的な態度の育成	教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。	9	生徒会活動や学校行事の企画や運営に関して、生徒自身により能動的に参加し成長できるようなシステムの構築に力を入れていく。	エ	B	南陵祭における発表や展示を通して生徒の主体性を引き出し、さらに仲間と協力することの良さや大切さを学ぶ姿勢を養った。また、リーダーの育成にも力を入れた。	生徒会活動や学校行事の企画や運営に関して、生徒自身がより能動的に参加し成長できるようなシステムの構築に力を入れていく。
			直接的な体験活動の充実を図る。	9	全校及び委員会等での奉仕体験活動を実施する。	エ	B	中等部は学校敷地内、高校生は三保海岸の清掃活動（浜清掃）を実施した。また、美化委員会による学校周囲の側溝清掃を実施した。	全校及び委員会等での奉仕体験活動を実施する。
部活動		生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実	指導方法等について工夫・改善を図る。	10	中高一貫教育校にふさわしい部活動の在り方を引き続き検討する部活動に一生懸命取り組んでいると答える生徒の割合70%以上	エ	A	夏季休業期間の教員対象の校内研修会で部活動の在り方について討論した。 部活動に一生懸命取り組んでいると答える生徒の割合 中：88.5% 高：85.9%	中高一貫教育校にふさわしい部活動の在り方を引き続き検討する。 部活動に一生懸命取り組んでいると答える生徒の割合80%以上
		基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的な生活習慣の確立に努める。	11	1日平均の欠席者数、遅刻者数それぞれ10人以下をめざす。	ウ	A	高：一日平均の欠席者数5.3人 高：一日平均の遅刻者数4.6人 昨年度に比べ、一日平均欠席者数、遅刻者数ともに減少した。	1日平均の欠席者数、遅刻者数それぞれ5人以下をめざす。
生徒指導		モラルの育成	マナーや社会的規範意識の育成を図る。	12	服装、頭髪、挨拶の指導に加え、マナーや社会的規範意識の育成について、職員の共通理解の下、徹底した指導を図る。	ウ	B	職員の共通理解の下、服装、頭髪、マナー指導を通して社会規範意識を高め、50周年式典を挙行することができた。	服装、頭髪、挨拶の指導に加え、マナーや社会的規範意識の育成について、職員の共通理解の下、継続した指導を図る。
		安全教育の充実	生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る。	13	交通安全教育を充実し、登下校時の交通事故の減少に努める。	ウ	A	4月に警察と交通安全指導員による交通安全教室を実施した。 9月に交通安全委員会（生徒）が企画した交通安全教室（ビデオ上映、交通ルールクイズ等）を実施した。また、交通安全委員（生徒）が交通安全に関する注意事項の伝達（毎週水曜日）と街頭指導（各学期1回、年間3回）を実施した。 P.T.Aによる街頭指導を年間2回実施した。	交通安全教育を充実し、登下校時の交通事故の減少に努める。
		望ましい勤労観・職業観の育成	就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。	14	L.H.R及び総合的な学習の時間へのキャリア教育の位置づけを見直すとともに、外部の人材活用を図る。	イ	B	外部の人材を活用した講演会を通して勤労観・職業観の育成に努めた。	L.H.R及び総合的な学習の時間へのキャリア教育の位置づけを見直すとともに、外部の人材活用を図る。
進路指導		主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成	進路希望達成のための指導の充実を図る。	15	①普通科卒業生に占める4年制大学への実合格者の割合90%以上 ②普通科卒業生に占める国公立大学への実合格者の割合50%以上 ③芸術科卒業生に占める音大・美大への合格者の割合90%以上	イ	B	①87% ②90% ③79%	①普通科卒業生に占める4年制大学への実合格者の割合90%以上 ②普通科卒業生に占める国公立大学への実合格者の割合50%以上 ③芸術科卒業生に占める音大・美大への合格者の割合90%以上
保健指導		心身の健康の保持・増進	病気予防、朝食摂取や薬物乱用の防止等の取組を推進する。	16	朝食摂取率を維持するとともに、病気予防のための取組を推進する。	ウ	A	「ほげんどより」等を通して予防啓発を行うとともに手洗いうがいや換気の徹底により病気予防に努めた。また、夏には熱中症予防のため水分補給を呼び掛けた。 朝食摂取率 中：97.3% 高：96.8%	朝食摂取率を維持するとともに、病気予防のための取組を推進する。
			薬物乱用・喫煙・飲酒等の身体的影響に関する指導の充実を図る。	16	学校薬剤師や警察などの外部機関との連携の下に、薬物乱用等に関する指導の充実を図る。高校が薬学講座啓発発信校に指定のため、一層の充実を図る。	ウ	A	薬学講座 中等部：6月10日実施 高校：7月8日実施 喫煙防止教室 中等部1年：7月10日実施 高校：7月17日実施 キャラバンカー 全校：11月13日実施 性教育講座 中等部3年：12月9日実施 高校2年：1月22日実施	学校薬剤師や警察などの外部機関との連携の下に、薬物乱用・性行動等に関する指導の充実を図る。
活用指導	図書指導	読書指導の推進	読書指導等、読書指導の充実を図る。	17	月平均読書量 中：月2冊以上 高：月1冊以上	ア	B	全校読書会を実施した。「国語」「探表」「美術」などの授業での図書室利用があった。 月平均読書量 中：1.3冊 高：0.6冊	月平均読書量 中：月2冊以上 高：月1冊以上
		図書館活用の促進	図書館を活用した学習活動の充実を図る。	18	図書館利用ガイダンス、図書館だよりの発行、授業での利用等により図書館活用の促進を図る	ア	A	図書館利用ガイダンス（新入生対象）やディスプレイの工夫、「図書館便り」「らいぶらりい」「図書委員の42冊」を発行し図書館活用の促進を図った。「国語」「探表」「美術」などの授業での図書室利用があった。	図書館利用ガイダンス、図書館だよりの発行、授業での利用等により図書館活用の促進を図る。

教職員 の 資 質 向 上	教職員の資質・能力の向上	教職員の人権意識の高揚と、教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図る。	19	教職員の倫理観・使命感の向上を図る研修を実施する。	ア	B	職員会議や全体研修などの機会を活用し、必ず不祥事根絶の話をし、教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図った。	教職員の倫理観・使命感の向上を図る研修を実施する。ことあるごとに、順調な時こそ油断をしないように、再確認しながら意識の高揚を図る。
		校内研修の充実を図る。	19	今日的な教育課題に対応するための研修会を3回以上実施する。	アイウ	A	いじめに関する講演会、部活動についての研修会を8月に実施した。中高の接続を意識した教科指導や新教育課程に対応する教科研修を実施した。不祥事根絶のため資料を配布し、教職員の倫理観の向上に努めた。	今日的な教育課題に対応するための研修会、不祥事根絶のための研修会を計画的に実施する。(3回以上)
		各種研修への参加と研修成果の校内での活用を図る。	19	職員会議等において研修会報告を実施する。	アイウ	A	職員会議等で研修会の報告を行った。	職員会議等において研修会報告を実施する。各種研修会への積極的な参加を呼び掛ける。
教育 相 談	相談体制の充実	校内外における相談体制を整備する。	20	相談室だよりの発行、ソーシャルスキルトレーニング、ピアサポートトレーニングを通して精神疾患に対する予防的な活動を行う。	ウ	A	担任、保健室、相談室、スクールカウンセラー間の情報交換を迅速に行うことができたため、生徒や保護者に対して積極的な働きかけをすることができた。	相談室だよりの発行、ピアサポートトレーニングソーシャルスキルトレーニングを計画的に行い、精神疾患に対する予防的な活動を充実させるようにしていく。
		校内外における連携体制を整備する。	20	職員会議等において支援を要する生徒に関する情報交換を実施するとともに、外部機関との連携を図る。	ウ	A	職員会議において、支援を要する生徒に関する情報交換を行った。また緊急性があるケースは、朝の打ち合わせで全職員に情報を提供することができた。情報交換会やケース会議も必要に応じて開催し、適切な対応のために役立てることができた。	生徒情報の管理システムを確立させ、必要に応じて情報が得られるようにする。また、組織的に記録を残すことで、指導の継続性を持たせるようにしていく。
福利厚生	教職員の健康の保持・増進	教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。	21	職員安全衛生委員会を月1回程度実施する。	該当なし	A	職員安全衛生委員会を年12回開催するとともに健康管理医による健康講話や職場健康づくり支援事業、AED研修等を実施し、教職員の健康増進や職場環境の改善に努めた。	職員安全衛生委員会を年12回実施する。
危機管理	危機管理に関する校内体制の整備	学校や地域との状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。	22	危機管理に対し、研修や訓練等を通して教職員の意識高揚を図る。	該当なし	A	防災マニュアルを見直し、行事ごとに避難マニュアルを作成した。水とトイレ関係の防災用具を充実させることができ、備蓄物の状況の確認も全職員で行うことができた。	危機管理に対し、研修や訓練等を通して教職員の意識高揚を図る。
事務 部 運 営	教育活動の支援	教務部との連携を図り、教育活動を支援する。	23	毎日の職員打ち合わせ及び職員会議等への事務職員の出席率100%	カ	A	交代で出席し、達成できた。	毎日の職員打ち合わせ及び職員会議等への事務職員の出席率100%
	親切・丁寧な応対の徹底	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な応対を行う。	24	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な応対を行う。	カ	A	苦情等はなく、ほぼ達成できた。	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な応対を行う。
	学校事務の効率化	常に創意・工夫した事務改善を図る。	25	一事務室一改革を目指す。	カ	A	無駄を省き、事務改善に努め、事務の効率を高めた。	一事務室一改革を目指す。
	学校経営予算に基づき予算の編成及び執行	当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。	26	各四半期別執行計画書の予算執行率100%	カ	A	節約と現状に合った予算配分を行い、職員の要求を取り入れた計画的な予算執行ができた。	各四半期別執行計画書の予算執行率100%
	教育環境の整備	施設・設備の整備充実を図る。	27	校内巡視等により危険箇所等の発見・改善に努める。	カ	A	校内巡視を行い、施設・設備の破損等を早期に発見し、修理等に努めた。	校内巡視等により危険箇所等の発見・修理に努める。
(学科)								
領域	ねらい	評価項目	項目	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
芸術科	芸術の諸能力を伸ばし、芸術に対する感性を高める学習の充実	専門分野の知識・技能の向上を図るため、指導内容や指導方法を工夫・改善する。	47	生徒による授業評価を年間2回実施し、授業改善を図る。	ア	A	音楽では校内演奏会、サマーコンサート、卒業演奏会を、美術では特別実技補習、デッサンコンクール、芸術科美術展を通して、専門の知識・技能の一層の向上を図った。	生徒による授業評価を年間2回実施し、授業改善を図る。
		一流の芸術家の表現活動や芸術作品に触れる機会を設ける。	48	公開レッスン（音楽）、実技講習会、アートセミナー（美術）を実施する。	アイ	A	著名な演奏家を招いての公開レッスン（音楽）、アートセミナー、実技講習会、モデルデッサン会等を実施し、芸術に触れる機会を設けて感性を高めた。	公開レッスン（音楽）、実技講習会、アートセミナー（美術）を実施する。

〔教育課題〕								
領域	ねらい	評価項目	項目	達成目標	当該重点 目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
情報教育	情報化に対応できる能力の育成	情報活用能力の育成を図る。	53	教科「情報」の指導の充実を図るとともに、パソコン室をより活用しやすくする手だてを考える。	ア	B	情報・技術の授業以外でのパソコン室の稼働率が上がった。特に中等部の授業で積極的に活用した。	教科「情報」の指導の充実を図るとともに、パソコンの更新や教室内の配置等について多面的な検討を行う。
		情報モラルの育成を図る。	54	教科「情報」や「総合的な学習の時間」等を通して情報モラルの育成を図る。	ウ	B	「情報」や「総合的な学習の時間」等を通して情報リテラシー教育を実施した。携帯電話の使用に関わる情報モラル教育を実施した。	教科「情報」や「総合的な学習の時間」等を通して情報モラルの育成を図る。外部講師等による携帯電話の使用に関する情報モラル教育を実施する方向で検討する。
国際理解教育	異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成	多様な文化、歴史等を学習する機会の充実を図る。	55	海外研修旅行及びその事前・事後研修の充実を図る。	イ エ	A	海外研修旅行及びその事前・事後研修を通して異文化理解を深めることができた。（中3生）台湾の歴史や文化について充実した研修をすることができた。また、中国語について講師を招いて充実した事前研修もすることができた。（高2生）フランス（パリ）の学校との充実した交流活動を行うことができた。	海外研修旅行及びその事前・事後研修の充実を図る。海外の学校とのより充実した交流の在り方を検討する。
		国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。	56	海外研修旅行を踏まえ、語学教育の充実を図るとともに国際交流体験の機会の充実を図る。	イ エ	A	中3生が中国語、高2生がフランス語会話の授業を行った。また台湾では現地の中高一貫校の中学生と学校交流を行い、中国語、日本語、英語をまじえてコミュニケーションをとり、体験を通じての充実した文化交流を行うことができた。フランスでは音楽・美術に触れる機会を設け、充実した異文化体験の機会を持つことができた。	海外研修旅行を踏まえ、語学教育の充実を図るとともに国際交流体験の機会の充実を図る。
人権教育	確かな人権感覚の育成	教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。	57	教科、特別活動等における人権教育の充実を図る。	ア	B	地歴・公民科、体育科、家庭科等の授業において人権教育を実施した。	教科、特別活動等における人権教育の充実を図る。
環境教育	自然を大切に する心と実践 的な態度の育 成	体験的な活動を通した環境教育を推進する。	58	職員を含め、資源の有効利用を促進し、ゴミの軽減に努める。	ア	B	年間を通じてペットボトルの回収を実施し、回収したキャップを福祉支援物資に引き換えることで、資源の有効活用に努めた。	職員を含め、ペットボトルキャップの回収を継続して実施し、資源の有効活用に努める。
福祉教育	他人を思いやる心など豊かな人間性の育成	高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。	59	保育体験活動を継続して実施するとともに、福祉委員会を中心とする活動の充実を図る。	ア エ	B	近隣の保育園と連携し保育体験活動を実施した。	保育体験活動を継続して実施するとともに、福祉委員会を中心とする活動の充実を図る。
防災教育	防災意識及び 防災対応能力 の育成	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	60	実践的な防災訓練を年間3回実施するとともに、職員の防災意識の高揚を図る。	エ	A	非通知訓練を含めて実践的な防災訓練を3回実施した。また、高校では防災ノートを使用した授業を1回実施して防災意識を高めた。	実践的な防災訓練を年間3回実施するとともに、職員の防災意識の高揚を図る。
		高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。	61	地域防災訓練の参加率30%以上	エ オ	B	地域防災訓練の参加率 中：61% 高：36%	地域防災訓練の参加率 中：55%以上 高：35%以上
〔その他〕								
領域	ねらい	評価項目	項目	達成目標	当該重点 目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
中高一貫教育	中高一貫教育の充実	中高一貫教育校として、6年間を通じて特色ある教育を展開するために、校内体制の充実を図る。	なし	異学年交流を推進する。基礎期、充実期、発展期の充実を図る。中高一貫教育完成年度の新しい課題の解決に努める。	ア	A	中高等学校交流等、異学年交流を毎学期実施した。特に体育祭では中高合同チームで協議を実施し、6年間教育の良い面が見られた。中高一貫教育について、全体研修等で取組、基礎期・充実期・発展期の教育について話し合った。今後も研修を継続していく必要がある。	慣れてきた異学年交流を、目的を再確認しながら推進し、基礎期、充実期、発展期の充実を図る。中高一貫教育完成年度の新しい課題の解決に努める。